早稲田大学

図書館紀要

第58号

大学の心臓として

飯島昇藏

前々回の創刊50年記念号に再録した大野實雄第六代館長の第1号巻頭言には、「図書館は大学の心臓である」とある。加えて前回特集を組んだ市島謙吉（春城）初代館長の膨大な功績に顧みて、あらためて「大学の心臓として」の図書館に課せられた責任の重さを感じている。

いつの時代にあっても、図書館は大学における教育研究の基盤としての役割を果たすべく、努力を重ねてきた。教職員、学生、校友、そして社会に対して図書館が提供してきたサービスの中心にあったのは、図書館が収蔵する資料であり、それは本学の教育研究と不可分のものである。その意味で今後も「図書館は大学の心臓」であり続けなければならない。

変化と変革の時代である。図書館が提供する資料のうち、電子的な形態によるものが大きな位置を占めるようになってきたのは周知の事実である。このような時代にあって大学図書館がその役割を担い続けるために一層の研鑽と努力が求められていることは言うまでもあるまい。今後とも本紀要が文字どおり関係者各位の研鑽の場でありつづけることを期待したい。

2011年3月